

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立下灘小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとの人や自然とつながり、自ら未来を切り拓く、たくましい児童の育成				
基本方針	身近な人や自然と主体的に関わり自分にできることを考え実践する児童を育てる。 合言葉 いい声・いい汗・いい笑顔				
本年度重点目標	①確かな学力を育てる教育の推進②豊かな心を育てる教育の推進③健やかな体を育てる教育の推進④安全・安心で充実した教育環境の整備⑤特別支援教育の充実⑥教職員の資質・能力の向上と組織の活性化				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A
			一人1台端末やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
			家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	(成果と課題) 読書活動の充実が見られる。自分の考えを発表できるようになってきたが、まだ、対話的で深い学びにはなっていない。一人一台端末の活用について、取り掛かりが遅くなってしまったため、十分な活用ができていない。クロムブックの使用同意書が教育委員会一括扱いで、全児童の提出に時間が掛かった。そのため、使用開始時期が遅くなった。使い方に慣れるための時間の確保が必要だったため、個別最適な学びまでは至っていない。				
	(改善策等) 対話的で深い学びにするためには、しっかりとした知識が必要であり、多くの問題に取り組むことも必要である。補充学習を行うのに、一人一台端末の活用は効果的なのではないか。一人一台端末を必要に応じて使うといったベストミックスが重要である。読書活動について内容の理解度で個人差・家庭差がある。				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A
	(成果と課題) 教育相談や情報共有の時間を通して、児童理解や情報共有ができています。また、共有した情報を基に適切・迅速にチームで対応できています。不登校やいじめの未然防止・早期対応ができています。				

(改善策等)

研修をしてSSWやSCなどの役割を理解した上でよりよい連携をしていく。外部の関係諸機関と情報共有をしこれからも児童の利益を最優先に考えた生徒指導を実施していく。係や役割を責任を持ってさせることで、自己有用感を持たせていく。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革(ワーク・ライフ・バランスの向上)に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) 職員室で、コミュニケーションを取ることを意識しながら雰囲気づくりに努めた。それぞれの職種の方から話を聞き連携に努めた。時間外勤務が少しでも少なくなるようにしたいが、文書量、仕事量から難しいと感じる。放課後の課外活動があると、時間外勤務の削減は難しい。					
(改善策等) 働き方改革を進めるために、研修を設ける。時間外勤務が減り、より効果的・効率的な学校運営ができるように常に検討していく。教諭・養護教諭・スクールバス運転手・給食調理員・支援員・学校事務員・地域学校協働活動推進員・SSW・SCなどと連携を更に図り、児童の健全育成に努める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧にを行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) 学校運営協議会での協議内容等のポイントを文書にまとめて知らせ、教職員にも共通理解を図った。校区別人権・同和教育懇談会の在り方について、学校運営協議会で検討し、共通認識を持って企画・準備をすることができている。学校での教育活動について、時間を空けずホームページに載せ、家庭・地域に情報発信をすることができた。						
(改善策等) 外来者や保護者に対して丁寧に対応することができた。今後も継続していく。保護者・地域の方・外来者などに協力等について感謝の意を伝えることを意識している。今後も継続していく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満